

ケミクレア

研究開発型メーカーとして独自のポジションを構築しているケミクレア。1955年の創業以来、培つてきた臭素化技術を核として数多くの高機能製品を供給している。

同社は、工業用殺菌剤などのバイオサイド事業と、医薬原薬・中間体、化成品などのファインケミカル事業を両輪に展開している。

小名浜工場（福島県いわき市）では5つの商業生産棟と隣接する研究開発センターとの一体運営により、ラボスケールから試作スケール、商業ベースの製品供給まで対応する。

生産過程の副生ガスも原料として有効利用して各種臭素化合物を生産。第5類の危険物倉庫も保有し、小回りの利く体制で、ユーザーの多様な要求にフレキシブルに対応できることが同社の強みとなっている。

バイオサイド事業は防腐剤および臭化メチルが中心。防腐剤はイソチアゾリン系原体および臭素系原体を各種取り揃え、水処理、化粧品、塗料向けの既存の使用用途に限定しない。

い用途展開を進めている。新規原体の開発も積極的に行っており、最近ではイソジアゾリン系工業用殺菌剤で従来剤よりも環境特性が高い「ZONEN-NX」を上市した。

穀物や輸入木材の燻蒸剤として必要不可欠な臭化メチルの需要も堅調だ。

ファインケミカル事業は医薬品や電子材料関連の需要拡大を受けて設備投資を積極的に進めている。医薬品では来年度から、分散していた製造設備をひとつの大工場棟に集約して管理の効率化を図る。

大学と連携した新規原体の開発も積極的に進めており、このほどブロモメチルアクリリート誘導体で、2種類の製品を開発した。

アジア市場での海外展開も強化する。ブロモ酢酸誘導体をはじめ、2-ブロモメチルアクリル酸エチルや臭化トリメチルスルホニウムといった特殊な誘導品で市場開拓を進めている。